

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花梨)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170700468-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170700468-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年12月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最近のご利用者様は概して医療依存度の高い方が多くなった傾向です。医療への対応力を強化を進めていますが、ご利用者様がいかなる心身状態であっても人間中心のケアを心がけている。新しい認知症介護制度へと変革がすすむときにはあるが、「ご利用者様とご家族へ安心をお届けする」の基本理念は貫く所存である。ご利用者が望んでいる人生プランに沿った介護計画を立て、ご家族と共に情報交換をしつつ共に充実した生活が送れるようにしたい。認知症は地域ぐるみでケアする、「解れた地域を認知症がつなぐ」そのものになれば明るい世界が見えてくる。わがホームの究極の目指すものである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に開かれた事業所として、地域の理解や協力関係を築いている。利用者の重度化、医療依存が進むなかで、かかりつけ医の往診と看護の医療体制を整え、安心して生活ができるように支援をしている。職員は、ゆっくり、一緒に、楽しくを合い言葉に、利用者中心のサービスを提供している。家族は、毎月送付される「ホーム通信」で、日々の様子を知ることができ、職員と心をひとつにして、本人を支えている。そして、互いの信頼関係を深め、地域ぐるみでのケアを目指し、充実した生活が送れるように取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(花梨)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念を見直し職員も入居者もその方を取り巻く周囲も皆が笑顔を決やさずにいられるようにをモットーに施設理念を新たに設けた。運営理念に変更は無く利用者が安心して生活出来るよう心がけている。	「手をだすな・口をだすな・見落とすな」の理念を基に、日々振り返り、全職員で共有をしている。利用者の思いを受け止め、持てる力を引き出し、安心して慣れ親しんだ生活が継続できるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事等へのお誘いを受けて参加している。小学校の運動会なども毎年積極的に参加し交流を図っている。	自治会の広報で、地域行事を確認して参加をしている。食材などは、地元の業者に依頼し、近所づきあいを深めている。小学生の職場体験を受け入れ、住民向けの介護相談も行っている。	前が通学路であり、小学生と笑顔のあいさつが、さらに深まることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談所という役割を果たしている。認知症の話題や情報提供に努めている。又朝のあいさつ運動とナズけ小学生の登校を見守り声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の代表として自治会長、老人会会長、民生委員、家族代表、広域連合代表、消防署の方々にご出席いただき2ヶ月に1度会を開いている。緊急通報訓練等にもご協力頂いている。本年から本巣市敬愛課からも参画してもらっている。	会議は、隔月に開催し、事業報告や行事計画などで意見を交換している。役職者の任期交代時には、引き継ぎを依頼したり、運営全般を話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから高齢福祉課や在宅支援センターの担当者とは連絡が密になっており協力体制は整っている。情報の共有化も出来ており積極的に地域連携に取り組んでいる。	運営推進会議出席の担当者へ、事業所の実情を伝え、指導や助言を受け、連携をしている。行政主催の会議や研修会に参加し、情報交換を頻繁に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束をしないを原則に介護をしている。ただしご本人や周囲の入居者等に安全の確保が出来ない場合はご家族への説明、同意を得た上で拘束を行っている。身体不拘束委員会を定期的に開き拘束の必要性の有無を検討し見直している。	事業所内に、身体不拘束委員会を設置し、全職員が拘束ゼロを目指して取り組んでいる。安全上必要な場合は、家族の了承を得、最小限に留めている。言葉での拘束にも十分に配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識下での虐待や言葉の暴力の有無等を見過ごさないようにしている。研修等にも積極的に参加している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度の利用に対し家族の希望で医療機関への連絡等を行う等協力をさせて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との話しあいのもと契約の締結や解約等を行っている。日ごろからご家族との関係を密にしてよりよい関係作りに努め理解が頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは毎月ひまわり通信と共に1ヶ月間の入居者の様子等を記載した手紙を同封し情報提供に努めている。又疑問や質問、意見等には敏速に対応している。	「ひまわり通信」で、生活の様子を家族に送り、意見交換をしている。食事の内容や形態、会話の様子などが知りたいとの意見がある。家族からの要望等には、速やかに対応し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度3施設の施設長会議にて報告並びに意見交換の場としている。要望についても検討し対応している。	法人の管理者会議で、職員の意見や要望を取り上げている。利用者の重度化や職員の負担軽減のため、浴場に機械浴を導入している。職員が働きやすい勤務体制を提案し、定着率の向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇や産前産後休暇等を利用し育児と仕事の両立が出来るよう環境が整いつつある。実際に利用して仕事復帰をはたした職員も居る。また研修や資格試験に対する支援にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や経験等を踏まえ外部研修を推進している。また資格取得研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会役員をしておりいち早く介護に対する情報等を発信できる立場にある。また勉強会等も企画運営し積極的な活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人確認の為に面談を行いグループホームで対応できるかどうかの見極めを行う。困難事例に対しては本人、家族の希望がかなえられるかどうか検討会議を開き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現時点で必要な事をアドバイスしたり時には共感したりすることで家族の精神的ストレスの緩和にも努め、家族とのより良い関係が築けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人面談や施設見学等を含め迅速に対応している。また即受け入れが出来ない場合やグループホーム対象者ではないと判断した場合には他事業者やふさわしいと思われる施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活が出来る場の提供と考え利用者一人一人が自分らしさを表現できるような介護を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も重視している。家族が自分の意見や気持ちを伝えることが出来る人間関係を大切にそれぞれの家族が希望する介護を目指している。また月に1度1ヶ月の様子を手紙に書きご家族へ報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着となり入居者同士が知り合いというパターンも多くなっている。地域の話や昔の話等もされている場面も多々あるがご家族への配慮も必要である。ご家族の希望にも添えるようにしている。	地元の利用者が多く、知人、友人、親戚、家族の訪問が多い。訪問者とは、雑談を交わし、楽しい時間を過ごしている。地元の商店へ買い物に出かけたり、家族の協力で、地域の行事へ参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い人間関係が築けるように支援している。悪影響を及ぼす関係となるような場合は少し距離を置くために棟を変える事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動、在宅復帰など退居になった場合でも相談、アドバイスを行っている。相談があればいつでも支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報収集や前サービス事業所からの情報提供から希望や要望を把握し出来るだけ添えるように援助している。	個別ケアの場で、思いや意向を把握している。入居時の意向調査を基本に、個々の状態を職員間で周知し、気づきを加えながら、希望に添った暮らし方につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前事業者、病院等とコンタクトを取り出来るだけ多くの情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の程度、サービスの利用状況、一日の過ごし方や家族構成、家庭環境、性格等個々により異なる為利用者一人一人について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひもときネットを取り入れ個々の情報や思い態度等から考察し課題を導き出し介護計画を作成している。また、受け持ちが示した課題をスタッフ内で意見交換し介護に反映させている。	「ひもときシート」を基に、職員、家族、利用者の意見や希望を受け入れ、介護計画を作成している。状態に応じ、専門職や医師に意見を求め、モニタリングを繰り返して、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子レク等による変化や気づき等を個別記録に記入している。また毎朝の申し送り時も報告している。また状態変化時には重症記録に切り替え詳しく記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎や糖尿病の内服薬からインスリンへの移行、骨粗鬆症の為に注射や胃ろう、吸引等サービス内容が多様化しており研修に参加したり勉強会を開いたりして対応できるように努めている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや高齢福祉課、病院や他施設等と協力しあい、より良い介護が提供できるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一般的な内科的疾患や認知症に関するものに対しては提携の内科医や精神科医へ入居以前のかかりつけ医を変更されている入居者が多い。ペースメーカー外来や皮膚科、眼下、耳鼻科等専門医療に関しては継続している。	契約時に、かかりつけ医について説明をし、了解を得ている。協力医は、毎週訪問している。歯科医、口腔衛生などの体制も整い、地域医療と連携しながら適切な支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はヘルパー同様現場に入り医療面を含めたアドバイスを現場職員に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院にあたっては病院との情報交換を密にしており良い治療が受けられるように配慮している。また各病院の相談室とも普段から連絡を取り合っておりより早急な対応が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末を迎える場所やターミナルの有無等個々の家族によって思いも異なる為早い段階でアプローチをして家族が充分考え、納得した結論が出せるように働きかけている。家族会等でも積極的に終末期や重症化の話に触れご家族の理解を求めている。	重度化や終末期の方針を、利用者・家族に説明し、契約書を交わしている。早い段階から、十分に話し合い、本人・家族の理解・協力の下で、終末期の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しそれに沿った手順で対応するように指導している。急変時の対応等勉強会も開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の職員の指導のもと避難訓練を実施している。夜間想定で避難誘導をしたり緊急通報装置も完備しより実践化し充実した避難訓練となった。緊急通報装置へ地域住人方々にも登録の協力をいただいた。	年に2回、消防署指導の下で、火災訓練を実施している。夜間想定を含め、通報、避難誘導方法などを行っている。地域との協力体制を整え、備蓄も完備している。	地域に即した、防災ガイドの資料づくりを検討している。その進展に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しそれぞれの個性も受け入れている。個々にあった言葉かけにも配慮している。	利用者の生活歴を把握できている。一人ひとりの人格を尊重し、地域に貢献した人生の先輩でもあり、敬う気持ちで、個々にあった言葉かけで対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体の介護にならないように日ごろから気をつけている。自己決定出来る場面を提供できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等大まかな日課は決まっているがそれ以外は個々の入居者が集団生活の中の出来る範囲内で思いのまま生活できるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染め等入居者の希望を聞き対応している。また衣服の購入などの買い物への同行も希望に応じ援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し調理している。野菜の下ごしらえや味付け、お盆やお箸の準備や後片付け等個々の能力に合わせお願いしている。	地元で収穫した季節の野菜を、利用者も共に下ごしらえや食事づくりを楽しんでいる。また、経験を活かしてもらい、保存食やおやつ作りなどを手伝っている。食事中は、楽しい会話が弾んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の能力や量に合わせて配膳している。食事形態も能力に合わせて提供し出来るだけ残すことなく、バランスの良い食事が出るように心がけている。疾患によっては薄味や食事量にも配慮。おやつやお茶、水分摂取にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。夜間は職員管理として消毒している。週に1度歯科医師の訪問診療があり治療や義歯調整・ブラッシング指導をして頂きアドバイスを受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせた排泄方法等に対応しストレス無く排泄に結び付けられるように援助し出来るだけトイレ内排泄を促している。パットを数種類から適切なものを選びコスト削減にもつなげている。	個々の排泄パターンを知ることで、負担のかからない声かけで、自立を支援している。本人の体調を常に把握し、きめ細かに対応をしている。オムツの選択は、業者から情報を得て、費用の削減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬と併用して食事量や水分量、決まった時間にトイレに座る事などでも便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯と入浴日の設定はある。ほぼ自立している方でも洗髪等の介助を必要とする為入居者全員に夏は最低週3回冬は最低週2回の入浴日を設定している。ただし毎日入っておられる方もあり臨機応変に対応している。	入浴日は、週に2回を設定している。ただし、希望者は、毎日でも入浴ができる。個々の習慣やこだわりによって、個々を楽しめるように支援をしている。重度化した人には、機械浴で安全に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の大半のスケジュールは決まっておらず個々それぞれのペースや習慣によって行動されており職員は見守っている。ただし乱れた生活習慣に対して介入はする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は必ず2人で行うようにしている。服薬チェックリストを作りサインをするようにした。食前薬、インスリン注射、週1回の内服など投薬忘れ防止のために張りだして皆でチェック出来るシステムにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見や運動会、夏祭り、外食、クリスマス会等行事は数多く計画実施している。日々の暮らしの中ではやそうじ、野菜の準備洗濯物畳み等規則正しい生活が送れるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を取り入れお連れすることは難しいがご家族にご本人の希望を伝えご家族に協力して頂くように働きかけている。温泉、ホテルでの宿泊等ご家族の協力をえて実現している。	日常は近隣を散歩し、途中の神社を参拝している。また、家族と協力し、個別の外出も支援をしている。年間計画では、家族と共に、貸し切りバスで日帰り旅行へ出かけている。	



岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設ではおこなっていない。ご家族の責任のもとで所持されている方もあるがトラブルに発展する可能性もある為最低限の額にして頂いている。買い物や外出でご自分で支払いをされる方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の取り次ぎ時間を確認してお話をして頂く事もあるが頻回に訴える方や時間帯等ご家族への影響を考え取り次がない事もある。また年賀状などはレクの一環として書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中での共同スペースに車椅子の方が増えてきている事もあり家具の位置等も配慮している。また気持ちよく過ごせるため季節の花を飾ったりレクで作成した手作り作品を掲示したりしている。	共同空間を、広く有効利用できるように、家具の配置に工夫をしている。湿度計や温度計で、空調を細かに管理している。季節の花や暮らしの写真集を飾り、居心地よく過ごせるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中で一人になれるスペースは難しいが居室内で穏やかに過ごされている。自然と自分の座る位置等も決まっておリラックス出来る空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、ダンス、ロッカーは備え付けてある。限られた空間の内であるので安全に配慮をして持ち込みを遠慮して頂くものもある。	居室のベッド、整理ダンス、ロッカーが備え付けである。家族の写真や手作りの作品、テレビや馴染みの小物類を家族と共に配置し、居心地よく生活できるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーとなり廊下には手すりが設けられている。外の通路にはスロープあり車椅子の方でも楽に外に出かけられるようになっている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(樫の木)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(檜の木)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念を見直し職員も入居者もその方を取り巻く周囲も皆が笑顔を絶やさずにいられるようにをモットーに施設理念を新たに設けた。運営理念に変更は無く利用者が安心して生活出来るよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事等へのお誘いを受けて参加している。小学校の運動会なども毎年積極的に参加し交流を図っている。今年も運動会では玉入れに参加した。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談所という役割を果たしている。認知症の話題や情報提供に努めている。又朝のあいさつ運動とみずけ小学生の登校を見守り声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の代表として自治会長、老人会会長、民生委員、家族代表、広域連合代表、消防署の方々にご出席いただき2ヶ月に1度会を開いている。緊急通報訓練等にもご協力頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから高齢福祉課や在宅支援センターの担当者とは連絡が密になっており協力体制は整っている。情報の共有化も出来ており積極的に地域連携に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束をしないを原則に介護をしている。ただしご本人や周囲の入居者等に安全の確保が出来ない場合はご家族への説明、同意を得た上で拘束を行っている。身体不拘束委員会を定期的に開き拘束の必要性の有無を検討し見直している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識下での虐待や言葉の暴力の有無等を見過ごさないようにしている。研修等にも積極的に参加している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度の利用に対し家族の希望で医療機関への連絡等を行う等協力をさせて頂いた。月1回程度の来訪があり現状の説明等対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との話しあいのもと契約の締結や解約等を行っている。日ごろからご家族との関係を密にしてよりよい関係作りにも努め理解が頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは毎月ひまわり通信と共に1ヶ月間の入居者の様子等を記載した手紙を同封し情報提供に努めている。又疑問や質問、意見等には敏速に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度3施設の施設長会議にて報告並びに意見交換の場としている。要望についても検討し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇や産前産後休暇等を利用し育児と仕事の両立が出来るよう環境が整いつつある。実際に利用して仕事復帰をはたした職員も居る。また研修や資格試験に対する支援にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や経験等を踏まえ外部研修を推進している。また資格取得研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会役員をしておりいち早く介護に対する情報等を発信できる立場にある。また勉強会等も企画運営し積極的な活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人確認の為に面談を行いグループホームで対応できるかどうかの見極めを行う。困難事例に対しては本人、家族の希望がかなえられるかどうか検討会議を開き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現時点で必要な事をアドバイスしたり時には共感することで家族の精神的ストレスの緩和にも努め、家族とのより良い関係が築けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人面談や施設見学等を含め迅速に対応している。また即受け入れが出来ない場合やグループホーム対象者ではないと判断した場合には他事業者やふさわしいと思われる施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活が出来る場の提供と考え利用者一人一人が自分らしさを表現できるような介護を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も重視している。家族が自分の意見や気持ちを伝えることが出来る人間関係を大切にしながらそれぞれの家族が希望する介護を目指している。また月に1度1ヶ月の様子を手紙に書きご家族へ報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着となり入居者同士が知り合いというパターンも多くなっている。地域の話や昔の話等もされている場面も多々あるがご家族への配慮も必要である。ご家族の希望にも添えるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い人間関係が築けるように支援している。悪影響を及ぼす関係となるような場合は少し距離を置くために棟を変える事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動、在宅復帰など退去になった場合でも相談、アドバイスを行っている。相談があればいつでも支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報収集や前サービス事業所からの情報提供から希望や要望を把握し出来るだけ添えるように援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前事業者、病院等とコンタクトを取り出来るだけ多くの情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の程度、サービスの利用状況、一日の過ごし方や家族構成、家庭環境、性格等個々により異なる為利用者一人一人について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひもときネットを取り入れ個々の情報や思い態度等から考察し課題を導き出し介護計画を作成している。また、受け持ちが示した課題をスタッフ内で意見交換し介護に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子レク等による変化や気づき等を個別記録に記入している。また毎朝の申し送り時も報告している。ま状態変化時には重症記録に切り替え詳しく記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎や糖尿病の内服薬からインスリンへの移行、骨粗鬆症の為の注射や胃ろう、吸引等サービス内容が多様化しており研修に参加したり勉強会を開いたりして対応できるように努めている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや高齢福祉課、病院や他施設等と協力しあい、より良い介護が提供できるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一般的な内科的疾患や認知症に関するものに対しては提携の内科医や精神科医へ入居以前のかかりつけ医を変更されている入居者が多い。ペースメーカー外来や皮膚科、眼、耳鼻科等専門医療に関しては継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はヘルパー同様現場に入り医療面を含めたアドバイスを現場職員に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院にあたっては病院との情報交換を密にしており良い治療が受けられるように配慮している。また各病院の相談室とも普段から連絡を取り合っておりより早急な対応が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末を迎える場所やターミナルの有無等個々の家族によって思いも異なる為早い段階でアプローチをして家族が充分考え、納得した結論が出せるように働きかけている。家族会等でも積極的に終末期や重症化の話に触れご家族の理解を求めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しそれに沿った手順で対応するように指導している。急変時の対応等勉強会も開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の職員の指導のもと避難訓練を実施している。夜間想定で避難誘導をしたり緊急通報装置も完備しより実践化し充実した避難訓練となった。緊急通報装置へ地域住人方々にも登録の協力をいただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しそれぞれの個性も受け入れている。個々にあった言葉かけにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体の介護にならないように日ごろから気をつけている。自己決定出来る場面を提供できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等大まかな日課は決まっているがそれ以外は個々の入居者が集団生活の中の出来る範囲内で思いのまま生活できるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染め等入居者の希望を聞き対応している。また衣服の購入などの買い物への同行も希望に応じ援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し調理している。個々の能力に合わせお手伝いをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の能力や量に合わせて配膳している。食事形態も能力に合わせて提供し出来るだけ残すことなく、バランスの良い食事が出るように心がけている。疾患によっては薄味や食事量にも配慮。水分にとろみも使用する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。夜間は職員管理として消毒している。週に1度歯科医師の訪問診療があり治療やブラッシング指導をして頂きアドバイスを受けている。		



岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせた排泄方法等に対応しストレス無く排泄に結び付けられるように援助し出来るだけトイレ内排泄を促している。パットを数種類から適切なものを選びコスト削減にもつなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬と併用して食事量や水分量、決まった時間にトイレに座る事などでも便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯と入浴日の設定はある。ほぼ自立している方でも洗髪等の介助を必要とする為入居者全員に夏は最低週3回冬は最低週2回の入浴日を設定している。ただし毎日入っておられる方もあり臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の大半のスケジュールは決まっておらず個々それぞれのペースや習慣によって行動されており職員は見守っている。ただし一日中寝ている等乱れた生活習慣に対して介入はする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は必ず2人で行うようにしてる。服薬チェックリストを作りサインをするようにした。食前薬など投薬忘れ防止のために張りだして皆でチェック出来るシステムにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見や運動会、夏祭り、外食、クリスマス会等行事は数多く計画実施している。日々の暮らしの中では、レクの一環に洗濯物畳み等をして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を取り入れお連れすることは難しいがご家族にご本人の希望を伝えご家族に協力して頂くように働きかけている。春には結婚式への出席を希望されている入居者もあり職員と一緒にリハビリに励んでいる。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設ではおこなっていない。ご家族の責任のもとで所持されている方もあるがトラブルに発展する可能性もある為最低限の額にして頂いている。買い物や外出でご自分で支払いをされる方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の取り次ぎ時間を確認してお話をして頂く事もあるが頻回に訴える方や時間帯等ご家族への影響を考え取り次がない事もある。また年賀状などはレクの一環として書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中での共同スペースに車椅子の方が増えてきている事もあり家具の位置等も配慮している。また気持ちよく過ごせるため季節の花を飾ったりレクで作成した手作り作品を掲示したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中で一人になれるスペースは難しいが居室内で穏やかに過ごされている。自然と自分の座る位置等も決まっておリラックス出来る空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、ダンス、ロッカーは備え付けてある。限られた空間の内であるので安全に配慮をして持ち込みを遠慮して頂くものもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーとなり廊下には手すりが設けられている。外の通路にはスロープあり車椅子の方でも楽に外に出かけられるようになっている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700468		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム本巣ひまわり(花水木)		
所在地	岐阜県本巣市七五三709番地1		
自己評価作成日	平成25年11月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年12月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価票(花水木)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念を見直し職員も入居者もその方を取り巻く周囲も皆が笑顔を絶やさずにいられるようにをモットーに施設理念を新たに設けた。運営理念に変更は無く利用者が安心して生活出来るよう心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事等へのお誘いを受けて参加している。小学校の運動会なども毎年積極的に参加し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談所という役割を果たしている。認知症の話題や情報提供に努めている。又朝のあいさつ運動となづけ小学生の登校を見守り声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の代表として自治会長、老人会会長、民生委員、家族代表、広域連合代表、消防署の方々にご出席いただき2ヶ月に1度会を開いている。緊急通報訓練等にもご協力頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから高齢福祉課や在宅支援センターの担当者とは連絡が密になっており協力体制は整っている。情報の共有化も出来ており積極的に地域連携に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束をしないを原則に介護をしている。ただしご本人や周囲の入居者等に安全の確保が出来ない場合はご家族への説明、同意を得た上で拘束を行っている。身体不拘束委員会を定期的に開き拘束の必要性の有無を検討し見直している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	無意識下での虐待や言葉の暴力の有無等を見過ごさないようにしている。研修等にも積極的に参加している。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度の利用に対し家族の希望で医療機関への連絡等を行う等協力をさせて頂いた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との話しあいのもと契約の締結や解約等を行っている。日ごろからご家族との関係を密にしてよりよい関係作りに努め理解が頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは毎月ひまわり通信と共に1ヶ月間の入居者の様子等を記載した手紙を同封し情報提供に努めている。又疑問や質問、意見等には敏速に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度3施設の施設長会議にて報告並びに意見交換の場としている。要望についても検討し対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	育児休暇や産前産後休暇等を利用し育児と仕事の両立が出来るよう環境が整いつつある。実際に利用して仕事復帰をはたした職員も居る。また研修や資格試験に対する支援にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の能力や経験等を踏まえ外部研修を推進している。また資格取得研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会役員をしておりいち早く介護に対する情報等を発信できる立場にある。また勉強会等も企画運営し積極的な活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人確認の為に面談を行いグループホームで対応できるかどうかの見極めを行う。困難事例に対しては本人、家族の希望がかなえられるかどうか検討会議を開き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現時点で必要な事をアドバイスしたり時には共感することで家族の精神的ストレスの緩和にも努め、家族とのより良い関係が築けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人面談や施設見学等を含め迅速に対応している。また即受け入れが出来ない場合やグループホーム対象者ではないと判断した場合には他事業者やふさわしいと思われる施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活が出来る場の提供と考え利用者一人一人が自分らしさを表現できるような介護を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係も重視している。家族が自分の意見や気持ちを伝えることが出来る人間関係を大切にしている。また月に1度一月の様子を手紙に書きご家族へ報告。来訪時には医療関係者からも状態説明をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着となり入居者同士が知り合いというパターンも多くなっている。地域の話や昔の話等もされている場面も多々あるがご家族への配慮も必要である。ご家族の希望にも添えるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い人間関係が築けるように支援している。悪影響を及ぼす関係となるような場合は少し距離を置くために棟を変える事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への移動、在宅復帰など退去になった場合でも相談、アドバイスを行っている。相談があればいつでも支援できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報収集や前サービス事業所からの情報提供から希望や要望を把握し出来るだけ添えるように援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前事業者、病院等とコンタクトを取り出来るだけ多くの情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知症の程度、サービスの利用状況、一日の過ごし方や家族構成、家庭環境、性格等個々により異なる為利用者一人一人について把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ひもときネットを取り入れ個々の情報や思い態度等から考察し課題を導き出し介護計画を作成している。また、受け持ちが示した課題をスタッフ内で意見交換し介護に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子レク等による変化や気づき等を個別記録に記入している。また毎朝の申し送り時も報告している。状態変化時には重症記録に切り替え詳しく記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎や糖尿病の内服薬からインスリンへの移行、骨粗鬆症の為に注射や胃ろう、吸引等サービス内容が多様化しており研修に参加したり勉強会を開いたりして対応できるように努めている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや高齢福祉課、病院や他施設等と協力しあい、より良い介護が提供できるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一般的な内科的疾患や認知症に関するものに対しては提携の内科医や精神科医へ入居以前のかかりつけ医を変更されている入居者が多い。ペースメーカー外来や皮膚科、眼、耳鼻科等専門医療に関しては継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はヘルパー同様現場に入り医療面を含めたアドバイスを現場職員に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院にあたっては病院との情報交換を密にしており良い治療が受けられるように配慮している。また各病院の相談室とも普段から連絡を取り合っておりより早急な対応が出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末を迎える場所やターミナルの有無等個々の家族によって思いも異なる為早い段階でアプローチをして家族が充分考え、納得した結論が出せるように働きかけている。家族会等でも積極的に終末期や重症化の話に触れご家族の理解を求めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しそれに沿った手順で対応するように指導している。急変時の対応等勉強会も開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の職員の指導のもと避難訓練を実施している。夜間想定で避難誘導をしたり緊急通報装置も完備しより実践化し充実した避難訓練となった。緊急通報装置へ地域住人方々にも登録の協力をいただいた。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しそれぞれの個性も受け入れている。個々にあった言葉かけにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主体の介護にならないように日ごろから気をつけている。自己決定出来る場面を提供できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事時間等大まかな日課は決まっているがそれ以外は個々の入居者が集団生活の中の出来る範囲内で思いのまま生活できるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染め等入居者の希望を聞き対応している。また衣服の購入化粧品、乳液などの買い物への同行も希望に応じ援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し調理している。野菜の下ごしらえ、お盆やお箸の準備や後片付け等個々の能力に合わせお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の能力や量に合わせて配膳している。食事形態も能力に合わせて提供し出来るだけ残すことなくバランスの良い食事が出来るように心がけている。薄味や食事量にも配慮し、水分摂取にも配慮している。場合によってはとろみ剤も使用		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。夜間は職員管理として消毒している。週に1度歯科医師の訪問診療があり治療やブラッシング指導をして頂きアドバイスを受けている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせた排泄方法等に対応しストレス無く排泄に結び付けられるように援助している。パットを数種類から適切なものを選びコスト削減にもつなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬と併用して食事量や水分量、決まった時間にトイレに座る事などでも便秘予防に努めている。3日排便が無ければ下剤を使用している方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯と入浴日の設定はある。ほぼ自立している方でも洗髪等の介助を必要とする為入居者全員に夏は最低週3回冬は最低週2回の入浴日を設定している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の大半のスケジュールは決まっておらず個々それぞれのペースや習慣によって行動されており職員は見守っている。ただし昼夜逆転等乱れた生活習慣に対して介入はする事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認は必ず2人で行うようにしている。服薬チェックリストを作りサインをするようにした。食前薬、週1回の内服など投薬忘れ防止のために張りだして皆でチェック出来るシステムにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見や運動会、夏祭り、外食、クリスマス会等行事は数多く計画実施している。日々の暮らしの中ではやそうじ、野菜の準備洗濯物畳み等規則正しい生活が送れるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望を取り入れお連れすることは難しいがご家族にご本人の希望を伝えご家族に協力して頂くように働きかけている。外出時の助言やサポート等を行っている。		

岐阜県 グループホーム本巣ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設ではおこなっていない。ご家族の責任のもとで所持されている方もあるがトラブルに発展する可能性もある為最低限の額にして頂いている。買い物や外出時にご自分で支払いをされる方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の取り次ぎ時間を確認してお話をして頂く事もあるが頻回に訴える方は家族からかけないで欲しいと希望される事もある。時間帯等ご家族への影響を考え取り次がない事もある。また年賀状などはレクの一環で書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中での共同スペースに車椅子の方が増えてきている事もあり家具の位置等も配慮している。また気持ちよく過ごせるため季節の花を飾ったりレクで作成した手作り作品を掲示したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間の中で一人になれるスペースは難しいが居室内で穏やかに過ごされている。ホールでは自然と自分の座る位置等も決まっておりますリラックス出来る空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、ダンス、ロッカーは備え付けてある。限られた空間の内であるので安全に配慮をして持ち込みを遠慮して頂くものもある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーとなり廊下には手すりが設けられている。外の通路にはスロープあり車椅子の方でも楽に外に出かけられるようになっている。		